



「てつがくカフェ（café philosophique）」とは、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん距離をとり、「そもそもそれって何なのか」といった遡行的な問いを投げかけ、ゆっくりとお茶を飲みながら、他の参加者との〈対話〉をとおして自分自身の考えを遅くすることの難しさや楽しさを経験するものです。1990年代に、フランスの哲学者マルク・ソーテが、パリのバスティーユ広場にあるカフェで始めたのがきっかけとされています。

てつがくカフェ

「医療とケアを問い直す」

人の生老病死に深く関わる医療やケアの現場は、〈てつがく〉的な問いに溢れています。てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」では、福井大学地域貢献事業の一環として、2016年より、医療やケアに纏わるテーマを、哲学的対話実践形式で問い直す場を拓いています。

皆さんは、福井大学医学部に“愛と医術で人と社会を健やかに”という理念があるのをご存知でしょうか？ 当の学生にとっては医学部に理念があったことすら知らない、というのが正直なところかもしれません。

今年度のでつがくカフェ@ふくmedi（学内開催）は「医学部理念を考える」シリーズを開催し、この理念について在学生から大学病院関係者、ひいては一般の方にも広く参加していただき、問い直してみたいと思います。第一回目は、“健やかさ”にスポットをあてていきます。

医学、医療に携わる者にとっての“健やかさ”とは、何らかの“疾患”を抱えた患者さんの身体と精神の治療を進めていくうちに、“機能回復”、“治癒”、“健常”といった言葉で表現されるような状態を求めることだと捉えられています。しかし“健やかさ”には、“目指すべき状態”というだけでは言い表せない、患者さんという名の一人の人間の背景を含んだ、一種の柔軟性をもった広がりや緩やかな階層性があるようにも感じます。

医学部理念を問い直す、ということは一見堅苦しい論議が起こる印象を受けますが、てつがくカフェでは堅苦しい雰囲気、勿論予備知識も一切不要！軽食、お茶も準備していますので気軽な気持ちでご参加ください！

「愛と医術で人と社会を健やかに」

福井大学医学部では、「真理を探究する知への愛」「人命を尊重し人間に共感する人への愛」の2つの「愛」と「医術」で人と社会を健やかにすることを理念としています。しかし、こうした理念が、医学を志す者の身体にしっかりと根付くためには、理念に掲げられたキーワードを、他者との対話を通してじっくりと遡行的に吟味する体力が必要です。シリーズ：「福井大学医学部理念を考える」では、福井大学医学部の理念を取り上げ、哲学的対話実践の場を拓きます。第一回目は、「健やかさ」について考えてみたいと思います。

福井大学医学部医学科4年 渡邊ゆうき

- ◆ 実施日:2018年7月20日(金)
 - ◆ 時間:16時30分～18時30分
 - ◆ 場所:福井大学医学部講義棟
コミュニケーションスペース1階
- 参加無料、事前申し込み不要、どなたでもご参加頂けます（途中退出も可能）**

ファシリテータ: 西村高宏(福井大学医学部 医学教育・倫理学分野)
ファシリテーション・グラフィック: 渡邊ゆうき(福井大学医学部医学科4年)
主催: てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」、てつがくカフェ@ふくmedi.
共催: 福井大学医学部附属教育支援センター

問い合わせ先: ニシムラ(tanishi@u-fukui.ac.jp)

シリーズ…福井大学医学部理念を考える
「健やかさ」とは何か？」